Surrogacy and parenting by a sexual minority man.

セクシュアルマイノリティ男性の代理出産と子育て

Mr. Kyle Phoenix

Q. 自己紹介をお願いします。

米国のバッファロー大学でティーチングアシスタントをやっていた学生ときからずっと、主に教育の分野で仕事をしてきた。大学を卒業した後、アメリカの企業で 5〜7 年間働いたが、9.11 の後、従事していた証券訴訟の仕事がなくなり、疲弊してしまった。その後、Harlem Children's Zone で責任者との渉外を担当する係として働き始め、LGBT の問題に焦点を当てたゲイ男性のための組織でボランティア活動を始めた。しばらくの間、黒人男性のための意見交換所の役員も務めていた。

そのあと、勉強を続けるためにコロンビアに移り、準備と向上に焦点を当てた成人教育のインストラクターになった。また、LGBT の男性と一緒にワークショップを開催した。 2019 年に、より多くの人々にリーチするために YouTube にワークショップビデオを投稿することにした。

2009 年、Kyle Phoenix Show というパブリックアクセステレビ番組を行うために交渉した。番組は毎週木曜日にマンハッタンで放送された。2013 年、自分の知識を本にまとめ始めた。トピックは、 LGBT のリプロダクティブ・ライツや、どうやって子供を持つかということなど。子供を持つことで男性に人生の目的に対する感覚を与えることができると思うが、多くの LGBT の男性は、これを自分たちの選択肢だとはまだ考
えていない。

Q. 自分のセクシュアリティに気づいたのはいつですか? 親になりたいと思ったのは? パートナーと話し合いはスムースできたか?

自分のセクシュアリティは時間とともに進化してきたが、もともと、自分は異性愛者だけではないことに気づいていた。両親は 12 歳のときに離婚し、その後のカウンセリングで、自分は異性愛者だけではない可能性が高いことがわかった。高校生のとき、ゲイとしてカミングアウトをした。大規模な LGBT コミュニティを持つニューヨークに住んでいたため、LGBT 世界のサンプルを手に入れることができた。自分は強力なサポートシステムを持っている。母親の友人のゲイがいて、彼が近しいメンターになってくれた。現在、自分のことをオムニセクシュアルと定義している。これは、ジェンダーとセクシュアリティの狭い範囲を超えるものだ。

いつも親になりたいと思っていた。家族形成に関して、LGBT コミュニティの中で社会的な反響はなかったが、自分は両親などと代理出産についてオープンに話し合っていたことを思い出す。母親は代理出産ついてとてもプラグマティックな考えの持ち主で、非常にサポーティブで進歩的だった。

子供たちに、自分の人生が終わった後も続いていく家族のコミュニティの感覚を作り出すことに心を砕いている。自分の祖父母、母、叔母/叔父はすべて亡くなったので、血縁の絆ではなく感情的な絆を築こう
としている。

Q. 親になったプロセスについて教えてください。

代理出産を依頼した。母親がその費用を賄ってくれた。当時、代理出産の費用は、今と比較してまだかなり安かった。自分が代理出産の旅を始めたとき、独身だった。そして今日まで自分で子供を育てていて、パートナーと一緒に子育てをしているわけではない。自分は(男性パートナーとではなく)子供とパー

@YURI HIBINO
@YURI HIBINO

トナーを組んでいるゲイ男性で「少数派のなかの少数派」だと言える。これはレズビアンの家族とは異なっている
と思う。

母親は、21 歳の頃に代理出産のアイデアを自分に伝え、それを具体的に考えるよう勧めてきた。20 代の頃、2 人の女性と真剣な付き合いをしていて、彼女との間に子供を持つことを考えていた。しかし、彼女たちは自分とは異なる道徳的信念を持っていたり、家族を一緒に作るために適切な心理状態ではなかった。

コロンビア大学で勉強しているときに、ベネズエラ出身の友人、ニーナを作った。彼女は母親になりたいとは思っておらず、できるだけ勉強を進めたいと思っていたが、そのためのお金がなかった。彼女は自分の代理母となることに同意し、彼が彼女に支払うお金で、勉強を続けるプランを立てた。その計画は、彼女が大学を卒業してベネズエラに戻る前に、アメリカで彼の子供を出産することだった。

長男が生まれてから 1 年以内に、ニーナは再び代理母になることを申し出てくれた。ニーナはもっとお金が必要だったし、自分は息子が一人っ子になることを望んでいなかった。最終的に、代理母に支払ったお金は 2 人の子供のために 2 万から 3 万ドルだった。これは、ニーナの授業料、医療費、およびすべての弁護士費用をカバーしていた。ニーナは 2 回目の出産後にベネズエラに戻った。彼女は子供にはほとんど興味がなかった。

両親が年をとっていたので、全てのプロセスは早く進んでいった。約 5〜7 年後、両親は亡くなった。両親が病気で末期の状態になり、両親の世話をした経験が、良い親になることを教えてくれた。境界がなくなることを受け入れなければならなかった。

Q. どのように子育てに取り組んでいますか?

いつもスケジュールとカレンダーを使用して生活をオーガナイズしているたちだ。すべてが「想定」されている場所にあるのが好きだ。母親が病気になったときにサバティカルを取った。この時、自分がどうして良いかわからないということを認めざるをえなくなった。そして、他人に助けを求めることを学ばなければならなかった。子育てについて助けを求めるのに、ゲイの男性は役に立たないことがわかった。最も助けになったのは、異性愛者や、すでに子供を持ち、子育てをよく知っているゲイの男性だった。自分は Charter school での仕事を通して多くの親子を知っていた Charter school は親密なコミュニティであり、アドバイスやサポートを提供できる人たちがたくさん関わっていた。

自分は感情面では女性らしいと感じているが、肉体的には、男性的で、集中力があり、自信を持っている。女性が社会的に行っていることを観察して疑問を抱くことにやぶさかではない。子育ては、自分にあるがままを受け入れることを教えてくれた。

Q. 子供達に代理出産のことをどのように話しましたか?

息子は現在 7 歳と 9 歳になっている。黒人が子供たちに対して行うようなことをやらないように努めている。なぜなら、それは現代社会や世界の動向の中では機能しないと感じているから。子供たちに教えているのは、人種(race)は社会的構成物であり、セクシュアリティは個人としてどう感じるかの問題に過ぎない。人生で最も重要なことは、実際には世間の人が思っているような類のものではないということ。

解剖学などについて、すべて正しい言葉を使って子供たちに説明する。自然界にあるものすべてをノーマライズし、さまざまなタイプの家族を明確に説明しようと努めた。子供たちとオープンに話し、子供たちの言うことに耳を傾けるよう努める。息子たちには、話

@YURI HIBINO
@YURI HIBINO

をすること、声を上げることを教えたい。そして、体罰や暴力、脅迫は
使用しないことを教えたい。

Q. 親になることの困難と喜びについて教えてください。

難しいのは、時間の配分だ。自分はよく、子供たちが眠っているときに仕事をして、子供たちが起きている間に彼らの相手ができるか？」を自問する。 「一緒にいれる時間はどれくらいか？」

そして、資金の問題がある。「子供たちのためにいくら稼ぎ出せるか?」 「将来、子供たちのためになるような良いものを提供できるか？」 （例えば、緊密な家族、自分が死んだ後も続くポジティブな影響） 喜びの面は、息子たちは面白おかしい
(funny)こと。自分は他人を怖がらせることもできるが、自分は子供たちを決して威嚇するようなことはしない。これは爽快で、最高だ。

Q. 子供たちが学校で何か言われることはありますか?

長男はある日、帰宅し、学校の子供たちが自分のことをレズビアンと呼んでいると言った。私たちはそれについて話し合い、息子は、他の子供たちは、それが何を意味するかを単に理解しておらず、もっと勉強する必要があることを認識しただろう。自分たちの家族構成が友人のほとんどの家族と似ていないことでいじめがあったが、子供たちは挑戦することを学んだ。それはまるで子供たちが父親をいじめから守ろうとしているかのようだ。

息子たちは現在、ニーナがどこにいて、彼女が何をしているのかについて空想的な物語を作り上げているが、自分はあまり気にしていない。

息子たちは父親のセクシュアリティに気づいている。子供たちにははっきりと説明している。子供たちは、ニューヨークに住んでいてさまざまな人に出会った結果、人々の違いを理解している。

Q. 家族を作りたいと考える男性の心配事は何でしょうか?

自分のワークショップの多くは、CDC を通じて資金提供されていて、テーマとしては特に HIV の問題について話している（黒人男性は米国で最も HIV 感染率が高い）。親になりたいという欲求の陰には、死に対する感受性がある（「私は十分長くここにいられるか?」）。HIV 陽性の人々にとっては、多くの感情的なハードルがあり、それを乗り越えなければならない。

黒人とラテン系の非ヘテロセクシャルの男性にとって、パートナーを持つことはオスカー賞に値するようなことだ（それを達成するのは非常に困難なこと）。その上に子供を持つことはさらに大きな飛躍だ。多くの困難を乗り越えなければ達成できない。カミングアウト、子供を持つためのリソースを調達する、有意義な関係性を維持することなど。

自分の両親が非伝統的であり、他の多くの黒人男性とは育てられ方が違っていたことをラッキーだと思う。アッパーミドルクラスで育ち、自分の可能性を感じることができた。静かにしていることを強要されなかった。それでも、自分が子供を持つことはある程度ラディカルなことだった。従来の「箱」の中に収まるなら、子供を持つことはもっともっとラディカルなことにな
る。

Q. 最後に。

異性愛者ではない親に育てられている子供たちのジェンダー表現とセクシュアリティに関するいくつかの議論を知っている。息子たちは、もっと流動的なアイデンティティをもっていることに気づきました。たとえば、下の息子はハロウィーンの王女になりたいと思

@YURI HIBINO
@YURI HIBINO

っていた。自分が持っていることをすべて教えることはできないことに気づいたが、その後、息子が王女になりたいという願望を社会的に否定されたが、自分はその願望を支持した。息子たちには、自分の体は自分のものであると教えている。

息子たちは、「彼/彼女はかわいい。多分、私は彼/彼女と結婚する。多分私は夫か妻を持つだろう」などと口走る。子供たちは自分や他人の意見についてより広い見解を持っている。息子たちを見るとき、自分の子育てと文化の影響を明らかに見てとることができる。自分が何を言うか、何を言わないかが、子供たちの性的発達に影響を与えることを知っていて、それははるかに流動的なことであると思っている。現在、息子たちも自分のことをオムニセクシュアルだと言っている。子供たちは、望むものを選ぶことができるし、それは時間とともに変化するかもしれない。

(2022 年 5 月)

Mr. Kyle Phoenix　Link

セクシュアリティの教育者として活動している。自らのセクシュアリティを omnisexuality と位置づけている。母親の勧めもあり、友人の女性に代理母を依頼し、息子 2 人をもうけた。現在 9 歳と 7 歳のシングル父親。動画や書籍を通して啓発活動を行なっている。

@YURI HIBINO
@YURI HIBINO